

ふれあい鷺山

鷺山校区コミュニティ誌



第17号

2008年8月30日

発行

鷺山自治会連合会

鷺山まちづくり

協議会

鷺山 夏祭り大会

大いに賑わい 楽しんだ



本誌は自治会加入世帯全戸へ配布しています

校区の行事

- 9月7日(日) 校区防災訓練 (校区全域)
- 9月15日(祝) 校区敬老会 (鷺山小 体育館)
- 10月12日(日) 校区市民運動会(鷺山小 校庭)
- 11月2日(日) 文化祭 (鷺山小 体育館)
- 11月16日(日) クリーンシニアぎふの日(清掃活動)
- 12月26日、年末夜警 (消防分団)
- 1月11日(日) 新成人を祝い励ます会(国際会議場)

御礼

夏祭り大会も皆さまのご協力で無事終了することが出来ました。多くの方々に参加いただき、大いに楽しんでいただけたかと喜んでおります。本通りの通行止めなどご迷惑をおかけしました。

一般校区民の方を始め、各企業、団体の皆さまには物心ともご支援、ご協力いただき厚く御礼申し上げます。

主催者一同





青山中生を先頭にパレード



県岐阜商マーチングバンド



かぐや第二幼稚園児



遠藤伸子



ふぞく幼稚園児



早田太鼓

8月10日午後4時から10時まで鷺山本通りを歩行者天国にして「鷺山夏祭り大会」が開催されました。



風華蓮



素人チンドン



鷺山本通り正木方面を望む



細江市長も来場



メイン会場



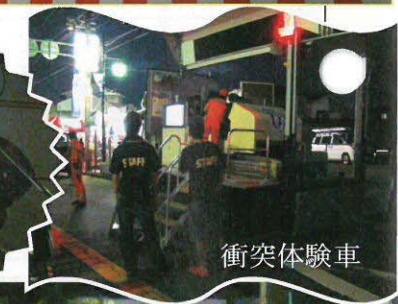
青山中合唱部



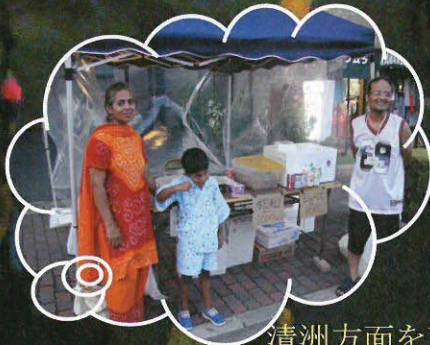
盆踊り会場



地震体験車



衝突体験車



清洲方面を望む



正木川を蘇らせよう！



校区の南の住宅街を流れる正木川の水が近年、涸れるようになりました。魚が泳ぎ、カルガモ遊ぶ癒しの流れを蘇らせましょう。

かねて市に依頼していた「正木川湧水調査報告書」によれば、正木川は水源がなく、最上流近くの岐阜グランドホテルの放流水を主としていたが、環境改善対策で放流が激減し、数年前から夜間から午前、休日是一日、中流域では水が涸れるようになりました。

水が涸れ雑草が生茂ってきた

身近な水辺環境を取り戻すべく、7月27日早朝から沿岸住民と他



地区の応援者百数十名が正木川に入り大きく生茂った雑草を引き、ゴミ等を拾い集めました。しかし常時水が流れないと又雑草が生え、イタチゴッコに…



きれいになったが水のない正木川

渇水対策を要望し癒しなごみの川に

前記「報告書」の対策案として「河川環境用水として放流を目的とした揚水井戸の設置」とあり、地域住民として「若丸公園」又は「蟬丸公園」内にぜひ実現したく、みなさんの支援をお願いします。(川上)

正木川の流域



長良南陽町辺りから細い水路に



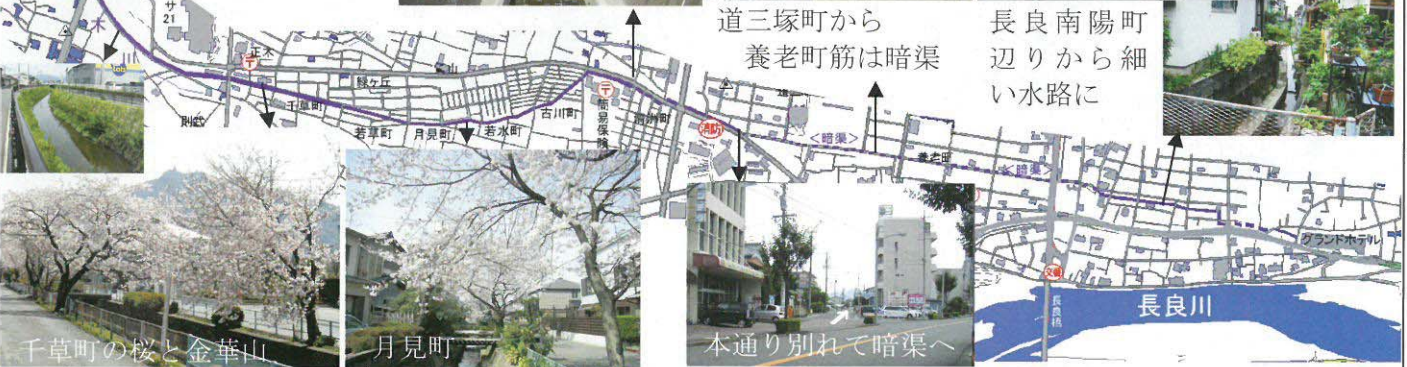
道三塚町から養老町筋は暗渠



岐阜銀行からの放水



正木川揚水機場



千草町の桜と金華山



月見町



本通り別れて暗渠へ

あなたも参加を

最近近隣地域で、平穩な生活を脅かす犯罪や事件が増えています。特に学童、生徒や高齢者が被害者になる事件が目立っています。

鷺山校区では、くらしの安全推進委員会「老人クラブ連合会」「自治会連合会」等が中心に「みまもり隊」が発足しました。

みまもり隊は夜間でも安全なように、白色帽子と緑の蛍光ベストを着用し、現在約百名が学童の登下校時



みまもり隊

安心・安全のまちづくり

「みまもり隊」が発足

老人パワーの発揮

かねて地域への貢献活動をと考えていましたが、なかなか立ち上がることが出来ませんでした。今回老人クラブ会長会で、やれるだけのことをやろうということ

動をはじめました。「継続は力なり」体調に気をつけ無理をしないで活動することを誓っています。現在30名が活動していますが、おいおい増員していきたいと思っています。

短歌

登校の子ら見守れる日課にて
笑顔の挨拶に励まされつつ

(鷺山老人クラブ連合会)

会長 野村 由

見守り、地域の安全についての見守りをする事に決し、連合会から貸与していただいた反射ベストと帽子を誇りを持って着用し、活

鷺山校区昔むかし

④

「鷺山の昔」は、岐阜市埋蔵文化財発掘調査報告書と歴史的地名をもとに鷺山の昔の点と線を繋いでみようという試みです。

中世の鷺山 1

平安時代から鎌倉・室町時代にかけ、鷺山は歴史の舞台として登場しますが、遺跡・遺物や地名にその当時の暮らし様子を合わせることは大変難しくなります。多分それは鳥羽川・長良川の河川の氾濫で度々生活の居場所が流失したりして、歴史の大きな流れの事跡に係るものや記録が残っていないからでしょう。



写真① 城之内遺跡俯瞰遺跡遠景 (岐阜市埋蔵文化財調査事務所提供)

い道路があり、その延長線の先に鷺山が見えます。当時の鷺山の南側は今見えていない鷺山の倍ほどの大きさがありましたが、その北側を県道が、鷺山小学校と法光寺と蝉々長良中学校を経由して東に向かって続いています。

鷺山遺跡群の発掘調査場所は、この道路の周辺及び北側にあり、古代東山道のあったと推定される仙道・仙古・蟬などの地名もこの道路周辺より北側に残っています。



字名に残る東山道 (「さぎやま」から)

十五世紀中ごろまでには、網の目のようにあった長良川の河道の一番大きな流れは、今の道三通りとなっている南側住宅街の廃川敷地(古々川)と早田の方に移動しつつあり、それより北側は土砂が堆積した扇

状地に自然堤防に囲まれた微高地が形成して、耕作に適した豊かな土地に変わりつつあったようです。



三川になった井川(長良川)

写真①の中央赤枠は、現長良高校の東側(長良公園)で、枝広館推定地の遺跡遠景です。ここに美濃守護土岐氏の居館があったと推定し城之内遺跡発掘がおこなわれました。

また、江戸の初めのころの土地台帳に上福光村、中福光村の名前があります。「下福光村」がないところをみると、「鷺山村」がそうであったでしょう。鷺山村が生まれる鎌倉・室町時代までに、荘園の現地主支配者であった荘官が「地頭」やがて「守護」と合わさり地方政治を管掌して、かれらの生活する館の周りを濠と柵、土居・堤で囲み、正門には櫓を置いて要塞化した地頭館や守護館が建てられ、その場所が上土居・下土居(北門)や城之前・鷺山蟬土手などのように町名や小字名で残ってきました。「土居」は豪族の名前にも見ることが出来ます。そしてこれらの地名の残る場所の遺跡の発掘によって、中世期の鷺山の姿を垣間見ることが出来ます。

鷺山蟬遺跡は金華橋通りと県道の交差点東北側で土

地が比較的高いところにあったのか、古墳時代より支配者が生活していたところのようです。平安時代から何回も建て替えられた住居の柱跡、こわれた土師器が大量にまとめて集積している土坑、一辺百二十メートル四方を土塁と堀で囲んで、館の正門と思える石組みの堀と土橋の跡など行政的・政治的な色彩を推定できる城館跡が確認されました。

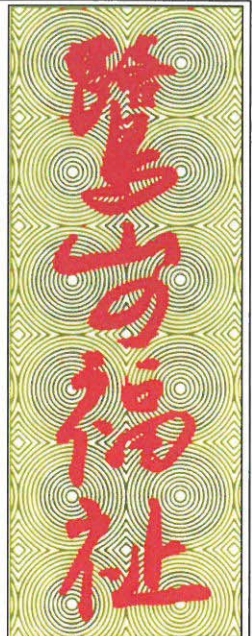


写真② 鷺山蟬遺跡発掘土橋と石組跡(岐阜市埋蔵文化財調査事務所提供)

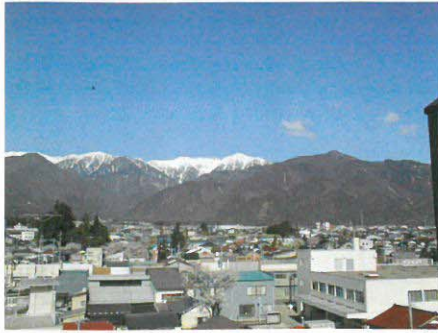
次回は「発掘された中世期の遺物・遺構」から鷺山を眺めてみましょう。

訂正 鷺山の昔③(15号)に「巡方」の遺物写真の説明に、「下級武士が着けた…」は「下級役人が着けた…」の誤りでした。

(水野 一)



第29号
発行
社福協鷺山支部
☎231-0040



中央アルプスを望む駒ヶ根市

駒ヶ根市 社協を視察

6月29日、社会福祉協議会鷺山支部長始め自治会長22名が長野県駒ヶ根市社会福祉協議会へ視察研修の為に訪問しました。今回の研修目的は地域福祉活動の中で住民主体の日常生活支援事業として駒ヶ根市が平成14



年から始められ、NHKのテレビ番組「こ近所の底力」でも紹介され全国的に注目されている「こまちゃん宅福便」の説明と意見交換を行うものです。

「こまちゃん宅福便」の仕組みは地域住民がお互いに助け合い、支援する人も受けられる人も同じ会員として利用することが出来る点が特徴です。(あくまでも物の支援ではなく人の支援です)
利用者：日常生活上で何らかの援助を必要とする市内在住の全ての人。

支援内容：日常生活の困りごとで社協が認めるものなら何でも良い。但し、プロの資格や危険が伴うものは除く。(例)調理、洗濯、買い物、病院同行、庭の草取りなど。

利用時間：基本的には午前8時30分から午後9時(対応できれば何時でも可)
利用方法：社協へ申し込み会員登録する。

登録料：年間千円(保険料を含む)
利用料：1時間800円(あくまでも目安)

宅福便は地域住民がお互いに助け合うシステム。利用者側の「利用会員」、サービス提供者側の「協力会員」に分かれるが両方に登録している人も多い。
最初の申し込み時には協会の「結び付け役」として社協のコーディネーターが利用者の家庭環境、特にその利用者の人のつながりを調べ、申し込み内容の必要性を判断し、できる

限り近所の協力会員を紹介する。2回目以降は本人同士が連絡し合いサービスを受ける。利用者と協力者は知り合いが多いため、あえて有償としている。

鷺山地域においても、近い将来、このようなシステムの導入を考えなければなら



駒ヶ根市社協の説明を聞く参加者

らない時が到来するものと思われま。今回の研修を踏まえ、鷺山地域に合うシステム作り

等、前向きな検討を進めて行きたいと考えております。(M)

地産・地消... 田植え 米作りを体験



6月16日、食生活改善推進協議会では、そのメンバーと有志の方20名が正木の元農家の水田約二百平方メートルに田植えを行いました。当日植えた苗は県のブランド米「ハツシモ」、古代米、黒米の3種類。参加者はおよそ3時間をかけ、横一列に並んで手で植えていきました。

これは地元で生産した米を食してみよう、自分で作った米を食べることで食の安全を考えてもらおうと初めての試みとして行われました。(←左頁へ)



三世代交流

名が参加し、食生活改善推進協議会主催の「親子料理教室」が開催されました。

7月22日、鷺山小学校家庭科教室で、児童とその保護者約60

最初に、北部ふれあい保健センターの鈴木保健師、森崎管理栄養士さんから最近では小中学生にもメタボリックシンドロームが拡



7月25日、食生活改善推進協議会主催の本年度第1

回「男の料理教室」が35名参加のもと、鷺山小学校家庭科教室で開催されました。男性が料理をする場合、だしのとり方、味付け順序、野菜の切り方など料理の基本を知らない方が大半

小さい頃からメタボ予防

意、特に今の時期ジュース、スポーツドリンクには大量の砂糖が含まれていることを、実物を見せて説明されました。この日のメニューは「メ

タボにならない食生活」と題して、スープカレー(豚ひき肉ミートボール、じゃがいも、たまねぎ、ミニトマト入り)、生野菜サラダ、にんじんご飯、フルーツラッシー(ヨーグルト、はちみつ、牛乳、フ

ルーツ入り)を児童が主体となり、お母さん達のサポートを受け約1時間をかけ挑戦しました。その後、親子揃って自分たちが作った料理の試食を行いました

がっており、肥満やメタボを早めに予防、解消していく必要があります。そのためにはよい生活習慣を身につける必要があること、また、脂肪、糖分の摂り過ぎに注

意、特に今の時期ジュース、スポーツドリンクには大量の砂糖が含まれていることを、実物を見せて説明されました。この日のメニューは「メ

美味しい料理は基本から!

であり、今回はこれらを基本から学びました。本日のメニューは「鶏のクリーム煮、たくわんサラダ、トマトとなすのチーズ

焼き、梅干しとじゃこのご飯、だし汁を味わう基本的なみそ汁」の5品。早速、かつお節のだし汁作りにも挑戦しみそ汁を作るなど、

食改推協委員さん達のサポートを受けながら5品全部を約1時間半かけて完成させました。そして全員で試食を楽し

の中、閉会しました。

次回は9月20日に予定され、イタリア料理に挑戦し



材料の切り方、だしの取り方などすっかり習得した様子の皆さん (鷺山小家庭科教室で)



低カロリーのスープカレーを作る親子 (鷺山小家庭科教室で)

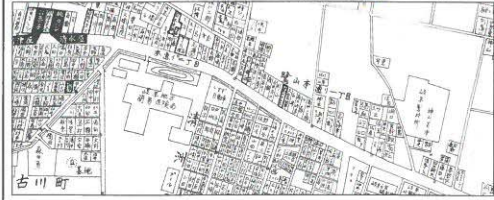
た。この夏休み中に家で再挑戦したいとの感想も聞かれるなど和やかな雰囲気の中、終了しました。尚、7月23日付中日新聞記事で紹介されました。

田植えは初めてという人もあり、足腰は疲れたがとても楽しかったとの感想が聞かれました。秋には刈取り、約90キロの収穫が見込まれるとのこととで、収穫した米は「男の料理教室」などで食べる予定です。尚、6月17日付中日新聞記事で紹介されました。



横一列に並び、慎重に手で植える皆さん (正木の水田)





鷺山本通り一丁目は校区の東端、北消防署向かいから西の一角。「簡易保険」、古川町の北あたりが一丁目。終戦直後の昭和21年、今の清洲町一帯に営団バラック上図は現在。下は昭和45年頃



昭和35・6年頃の本通りの砂利道。矢印の処に保育所があった。(清水屋さん提供)

ク住宅270戸、22年に保険局が建設され、堤防を削った鷺山本通り沿いに店がぼつぼつと出来始めました。菓子屋、八百屋、靴屋、酒屋、食堂、自転車店、美・理容店と住宅兼の小さいお店ながら、鷺山商店街の始まりでした。西へ住宅街が広がって行くと共にお店も西へ延びて行ったようです。

本通りは広いながらも砂利道で、もちろん歩道もなく、自動車を通るたびに土ぼこりが舞い、大変だったようです。24年には市営バスが開通し、散水車で水を撒いてもらったそうです。

本通りのお店も入れ替わったり、新店が出来たり。地下道が出来たのは昭和40年。47年頃本通りに街路灯が出来、賑わいを見せました。昭和45年南蝉地区一帯の区画整理が始まり、50年に清洲町交差点から北へ、一丁目の真ん中を広い道路が出来、現金華橋通りが開通しました。51年、沿道にはショッピングセンターやお店が建ち、新しい街が出来ました。



幼児プールもある蝉丸公園

一丁目の東端に「蝉丸公園」があり、夏休みには幼児プールが開きます。清洲第二長寿会の皆さんがお世話しています。(取材協力 清水屋、北川酒店さん)

南正木に公園



区画整理中の南正木地区に児童公園が3月誕生しました。環状線の正木橋すぐ南。遊具は数種あり、西側には遊水池を兼ねた広場で、一段低くなっています。幼児・身障者トイ、水飲み場も完備です。

編集後記

夏祭りも3回目を迎え、住民の皆さんには定着してきて楽しんで頂いています。が、裏方がなかなか大変です。交通安全の方は現場から動けず、食事もままならず。スタッフも年毎に変わり、一から苦労しています。設備にも毎年、金が掛かり、対費用効果的にも一度考え直す時。もっと広く、住民の皆さんの積極的な参画(提案、お手伝い)、支援が必要なようです。①

城之前・北門

鷺山字名あきなめぐり



下土居地区に「城之前」という小字名がある。誰が考えても、いつかの時代に武士の居城があり、それに因んだ地名と想像できる。最初に思い浮かぶのは、美濃守護の土岐頼芸や「国盗り物語」の主人公・斎藤道三の居城した鷺山城であろう。しかし、地理的に無理がある。「美濃国稲葉郡志」(土岐琴川著、大正四年・一九一五刊)に、下土居城址が「鷺山村大字下土居にあり、土岐一族土居駿河守頼継の居城なり」と云う」と記されている。おそらく、下土居城とかかわりがあるものと考えられる。北門も同城の北の門であろう。土岐氏は「美濃源氏」と称され、その遠祖は平安時代の清和天皇に始まる。中世には、美濃国各地に一族が伝播して勢力を振った。(加納宏幸)